



問

津駅東口交通ターミナル、上部空間活用に向けた調査状況は

津駅東口の交通ターミナル整備として、国が進めるバスタプロジェクト調査のステージが、令和8年4月に新たな展開を迎えたと聞いている。

バスタプロジェクトは、大きな取り組みであり、大きな成果として評価できると考える。

これまで進められてきた国の調査が、このたび新たな調査段階を迎えたことに対する市長の見解と事業化に向けた今後の見通しについて質問する。

答

新たな調査段階に進み、国・県・市で連携して検討を進めていく

バスタプロジェクトは令和2年にスタートした国の事業で、令和3年4月に津駅周辺が調査箇所の一つに選定され、交通拠点の機能強化の必要性等の調査が進められてきたが、令和8年4月に調査段階が一段階ステップアップし、整備方針の検討へ進むこととなった。新たな調査段階に進むことができたのは、地元や市民の方からの津駅の形を変えることに対するご支援の声が大きかったことによるものと捉えて感謝している。今後の見通しについては、四日市バスタの竣工後に着手されるよう要望を重ねるとともに、しっかりと国の調査に協力し、国・県・市で連携して検討を進めていく。

その他の質疑・質問

- 津市コミュニティバス・スクールバス運行業務における安全確保と運転士さんの処遇について
- A R I S スクールコンタクト I N 南が丘小学校における宇宙飛行士との交信授業について
- 都市計画運用指針における土砂災害特別警戒区域の考え方、津市立地適正化計画における土砂災害特別警戒区域の取り扱いについて など

津駅東口交通ターミナルと一体となった官民連携による複合建築物のイメージ



問

行政の進化と業務革新に向けた取り組みについて問う

生成A I の活用については国も推進しており、生成A I の導入・活用に関する指針となる「行政の進化と革新のための生成A I の調達・利活用に係るガイドライン」が、令和7年5月にデジタル庁から発信されている。

そこで、津市における生成A I の活用状況と活用のルール、A I 統括責任者（C A I O）設置についての考えを問う。

答

会議録の作成等さまざまな業務に生成A I を活用している

津市では、会議録の作成、文章の要約、政策立案のアイデア出し、広報紙等に掲載するイラストの作成など、さまざまな業務に生成A I を活用しており、生成A I を安全に活用するため、順守しなければならない事項および利用上の注意事項を定めたガイドラインを整備し、職員に徹底している。

A I 統括責任者に関しては、「行政の進化と革新のための生成A I の調達・利活用に係るガイドライン」に示されているが、地方公共団体に設置を義務付けているものではなく、直ちに配置する予定はないが、今後、状況を見て判断していく。

その他の質疑・質問

- 議案第63号 津市運動施設の設置及び管理に関する条例の一部の改正について
- 議案第74号 令和8年度津市一般会計補正予算（第2号）
- 津城跡に関係した観光振興の取り組みと課題は
- 海上アクセス運航事業における新造船について
- 部活動の地域展開の取り組みについて

石垣が隠れるほど生い茂った草木、続100名城の名にふさわしい維持管理を！

